

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本

子どもの読書活動

学校・園の取り組みを紹介します③

☎社会教育課 ☎・☎(582)1142 ☎(581)2733

吉身小学校

「心に残る本との出会いを大切に」

読み聞かせボランティア「ひまわり」さんや地域のボランティアさんに来ていただき、毎週火曜日に読み聞かせを行っています。また、金曜日の朝10分間読書も行いながら落ち着いた空間の中で本に親しむ時間を大切にしています。



入学して間もない1年生の教室では、読み聞かせを待ち遠しくしている様子が見られました。ボランティアさんが子どもたちにぴったり合う絵本を選んで読み、子どもたちとの触れあいを通じて心の交流を図ってくださることから、地域と学校が本を通して結びついている大切さを改めて感じています。

これからも「心に残る本との出会い」をしていくためにも読み聞かせや読書の時間、「ひまわり」さんや地域との交流を大切にし、子どもたちの豊かな心を育てていきたいです。

速野カナリヤこども園

「ドキドキ・ワクワクいっぱい宝箱」

子どもたちにとって絵本は、いろいろな世界に連れて行ってくれる宝箱です。一人でじっくり面白さを楽しんだり、みんなでドキドキ・ワクワクを共有したりと、毎日、絵本の世界を楽しんでいます。



乳児は、ひびきとリズムを楽しめる絵本を繰り返し読むことで、保育者と簡単なフレーズややりとりを楽しみながら、言葉の獲得に繋がるようにしています。また、身近なものの絵本から、食べ物や乗り物などに興味を持てるようにしています。5歳児は、絵のないお話の読み聞かせを始めました。絵がない分、集中して静かに話を聞いて、それぞれがイメージを膨らませながら主人公になりきっています。

これからも絵本の大好きな子どもを育てていくとともに、絵本を通して、豊かな心を育てていきたいと思っています。



佐川美術館
アートコラム②④

アートと音楽について

公益財団法人佐川美術館
学芸員・馬場まどか



「アート」と「音楽」これら2つの芸術は、今も昔も人の心を豊かにする役割を果たしています。

人間が文字を持つ以前、いわゆる先史時代から「アート」と「音楽」はありました。ラスコーの洞窟絵画と聞けば、教科書などで知っている方も多いと思います。この絵画は狩猟の成功を祈って描かれたという説がありますが、実は洞窟内に描くことで反響を利用した音響、すなわち「音楽」を奏でていたと考えられています。また、洋の東西を問わず、「アート」や「音楽」は宗教で盛んに取り入れられました。

ヨーロッパであれば、キリスト教絵画やステンドグラス、日本でいえば仏像や仏教画が「アート」に当てはまり、キリスト教の賛美歌や仏教のお経は「音楽」に当てはまります。

時代が流れ人々が社会的権利を手にするようになった現代、自己表現のために使用される最もメジャーなツールの一つとして、「アート」と「音楽」は地位を確立するようになりました。非常に多くのジャンルが誕生し、今この瞬間もどんどん新しいものが生まれています。

このように「アート」と「音楽」が担ってきた役割は、現在も私たちの生活に欠かせないものとして存在していると言えます。私たちは少し非日常の空間に浸りたいときや、リラクセスしたいときなど、あらゆるシーンでこれらを活用しています。

佐川美術館では毎年晩夏から初秋にかけて、夕暮れ時のコンサート「トワイライトコンサート」を開催しています。今年は8月24日(土)、9月7日(土)に開催します。私たちに感じる心を育ませ、日常生活を彩る作用を持つ「アート」と「音楽」に触れ合う時間を過(すご)してみたいかがでしょうか。